

1. 木質バイオマス関連情報

■東北電力（宮城）、「東北・新潟エリアにおける再生可能エネルギーの導入量増加に伴う発電事業者さまへの出力制御に向けた準備のお願いについて」をプレスリリース（12 月 7 日）。東北 6 県・新潟エリアで再生可能エネルギー発電設備の導入が急速に進んでいることから、将来的に供給力が需要を上回る場合「優先給電ルール」に基づき、再エネ発電設備等の出力制御を行う。このため、火力・バイオマス・太陽光・風力の各発電事業者にダイレクトメールを送付する等の対応をする予定【東北電力：2018/12/07】

http://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1199028_1049.html

■（株）丸井グループ（東京）、みんな電力（株）（東京）と資本業務提携。同社グループが加盟する『RE100』の目標に向けた、再生可能エネルギー導入の取り組みを拡大へ。丸井グループでは、2018 年 9 月から小売店舗「新宿マルイ本館」が、みんな電力の新サービス「ENECE RE100 プラン」のトライアルに参加。2018 年 9 月期の電力量の合計は約 40 万 kwh、うち再生可能エネルギーの電力量は約 38 万 kwh で再生可能エネルギー率は約 90%。そのうちの 20.8%を占める FIT バイオマス分は、2011 年に運開した神奈川県「川崎バイオマス発電所」から融通。10 月期以降も同程度の供給量が予測され、さらに 2019 年度はみんな電力との取り組み拡大により再生可能エネルギー率 100%を目指す。丸井グループ全体では 2025 年までに事業活動で消費する電力の 70%を、2030 年までに同 100%を再生可能エネルギーにすることが目標【（株）丸井グループ：2018/12/07、日本経済新聞：2018/12/17】

http://www.0101maruigroup.co.jp/pdf/settlement/18_1207/18_1207_1.pdf

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO39025500X11C18A2000000/>

■長野県飯山市、市有地の戸狩工業団地への木質バイオマス発電施設誘致を撤回へ。市長が 12 月 12 日の市議会 12 月定例会

の開会あいさつで表明。計画に賛同できないとした地元地区の意向を尊重。木質バイオマス発電はグリーン・サーマル（株）（東京）が計画。2020 年度の操業を目指し、市内や周辺の山林から出る間伐材などを活用する発電施設（最大出力約 7,000kW）を建設する意向だった。市と同社は 2017 年に工業団地のある常盤地区で地元説明会を開いたが、計画に伴う地下水枯渇への懸念や、景観にそぐわないのではといった疑問が出ていた。工業団地に近い上野区の有志は「バイオマス発電施設検討委員会」を発足。専門家を招いて周辺への影響等を学び、発電では 1,000t/日の水が必要とされ、地下水が枯渇しないか、高い煙突が景観に調和するのかなどの疑問が上がっていた。住民の懸念や疑問を解消できず、市は協力が得られないと判断【47NEWS：2018/12/13】

<https://www.47news.jp/3070094.html>

■NEDO、「バイオマスエネルギーの地域自立システム化実証事業／事業性評価（FS）、技術開発事業」の委託・助成予定先を決定し、公表。技術開発事業では災害に強く、FIT や補助金等に頼らないことを念頭においた、アイシン精機（株）（愛知）の「オンサイト小型バイオガス発電システムの要素技術開発事業」を採択。事業性評価（FS）では各地域で異なるバイオマス種の最適なエネルギー利用システムの構築に向けた事業性評価を行うとする 7 件の事業が選ばれた。詳細は下記サイト参照【NEDO：2018/12/12】

https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101047.html

■長野県の中島恵理副知事が、ポーランドのカトヴィツェで開かれた国連気候変動枠組み条約第 24 回締約国会議（COP24）に参加。2019 年 6 月に長野県軽井沢町で開催される「G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」を環境・エネルギー政策推進の契機とするため、参加。地球温暖化対策や持続可能な社会づくりに意欲的に取り組む世界の自治体の協議会が会場内で開催したイベントにも参加。長野県伊那市でバイオエネルギーなど森林の資源を活用

した経済の仕組みづくりを進めていることを紹介した【産経新聞：2018/12/12、長野県：2018/12/06】

https://www.sankei.com/region/news/181212/rgn181212000_2-n1.html

https://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/happyou/301206_g20press.html

■京都府、府北中部の再エネ利用施設や道の駅などの観光施設をめぐるスタンプラリーを実施中。再エネ利用施設5カ所の中には、バイオマスを利用した入浴施設がある京都府立丹後海と星の見える丘公園（宮津市）などが含まれている。再エネ利用施設と観光施設を2カ所ずつ訪ね、台紙にスタンプを計4つ集めて同公園へ郵送または持参し応募すると、景品がもらえる。実施期間は2019年3月24日まで【EIC ネット：2018/12/12、京都府立丹後海と星の見える丘公園】

<http://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=41547&oversea=http://www.eco-future-park.jp/modules/info/index.php?page=article&storyid=266>

■学校法人中央大学（東京）と（株）デンソーの共同研究グループが、「Cas9/gRNA 複合体の細胞内への直接導入」という新しいゲノム編集方法を用いた単細胞性緑藻コッコミクサのゲノム編集に成功。単細胞性緑藻コッコミクサは、増殖が早く細胞内に多くの油脂を蓄積できる点でバイオ燃料生産に適している。このゲノム編集技術を用いることにより、屋外の培養槽外での増殖が制限される品種や油脂生産性が1.7倍に上昇した品種の作製にも成功。同事業はNEDOと農水省の委託業務として実施【中央大学：2018/12/14】

http://www.chuo-u.ac.jp/common_d/uploads/2018/12/fabdf3ed61ce63f1cd6e1880dc0cb5bb.pdf

■2019年3月末で事業を廃止する北海道白老町のバイオマス燃料化施設、10年間の負担は19億円超。2009～2017年度までの事業収支が9億6,072万円の赤字で、2018年度の決算見込みを含めると10億6,809万円の赤字に。解体費用は約2億9,000万円、2019年度の施設の維持管理費が1,100万円、約3,000t残る余剰生成物の一括処理に約1億円、ごみ処理の新たな負担が1,557万円となり、町が10年間で同事業に投じた総額は19億8,800万円に上ることが町議会定例会12月会議の

質疑で明らかに。同施設は2017年5月の会計検査院による実地検査の結果、交付金で整備した高温高圧機が稼働していないことが補助目的未達成として交付金の返還を求められ、町が事業廃止方針を表明していた。町長は年明けに町民説明会を行い、事業廃止に至った経緯などを説明する【苫小牧新報：2018/12/15】

<https://www.tomamin.co.jp/news/area2/15299/>

■伊藤忠商事（株）（東京）のグループ会社 Dole Philippines Inc.（フィリピン、以下「Dolefil」）は、Metro Pacific グループ傘下の Surallah Biogas Ventures Corp.（フィリピン、以下「SBVC」）と16年間の長期エネルギー売買契約を締結。Dole 商品の製造過程で生じるパインアップル残渣をバイオガスの原料として Dolefil から SBVC に供給し、SBVC が建設したバイオガス発電設備で製造したガスと電力を固定価格で Dolefil に16年間供給するスキーム。2018年11月にフィリピンのミンダナオ島で起工式を開催。2020年操業開始予定【伊藤忠商事（株）：2018/12/13】

<https://www.itochu.co.jp/ja/news/press/2018/181213.html>

■三井物産（株）（東京）、タイでサトウキビ残渣を使うバイオマス発電強化。三井物産とグループの三井製糖（株）（東京）はアジア等で砂糖需要が拡大するのに対応し、タイ東北のウドンタニ県の製糖会社、カセットポンシュガーに約370億円を投じ、2019年10月に高品質砂糖の生産能力を今の約3倍の30万tに増強する。それに伴い残渣のバガスも増えるため、ボイラや発電機などを導入し、バイオマス発電所の発電能力を従来の約2倍の3万kWにまで高める。2019年秋の増設までは自社工場向けに電気を供給し、余剰分を小規模ではあるが売電。将来はFITの下、周辺地域へ再生エネを供給できるよう売電事業に乗り出す予定【SankeiBiz：2018/12/17】

<https://www.sankeibiz.jp/business/news/181217/bsd1812170500003-n1.htm>

■ポーランドのカトヴィツェで開催されていた第24回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP24）が12月15日に閉幕。会議に参加した締約国約200カ国は、（延長を含め）2週間に及ぶ緊迫した交渉の末、地球温暖化を産業革命以前との比較で2℃をはるかに下回る水準に抑えることを目指す「パリ協定」の実施指針となる「カトヴィツェ気候パッケージ」を採択。パッ

ケージでは、温室効果ガス排出量を統一的に計測する方法や、2023年に気候変動対策の実効性を集団的に評価すること、技術の開発と移転に関する進捗状況をいかに監視、報告すべきかについて合意。開発途上国における気候変動対策への先進国からの資金供与については、2025年以降について、2020年までに年間1,000億米ドルを動員するという現状の公約よりも野心的なターゲットを新たに設けることを定めている。パリ協定第6条の「市場メカニズム」の問題は、2019年11月チリで開催されるCOP25に持ち越しに【日本経済新聞：2018/12/17、国際連合広報センター：2018/12/20】

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ039018850X11C18A2M8000/>

http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31570/

■（一財）新エネルギー財団（東京）、「平成30年度新エネ大賞」を発表。バイオマス関連では、久慈バイオマスエネルギー（株）（岩手）、東芝インフラシステムズ（株）（神奈川）、岩手県久慈市が共同で取り組む「～久慈発！木質バイオマス熱エネルギーの面的利用で産業振興～」と、愛知県知多市と東邦ガス（株）（愛知）が取り組む「知多市南部浄化センターで発生するバイオガスの都市ガス原料としての有効利用事業」、そして（株）リコー（東京）による「地域連携による木質バイオマスエネルギーの地産地消モデル構築と普及活動」が新エネルギー財団会長賞の「導入活動部門」を受賞【（一財）新エネルギー財団：2018/12/17】

<https://www.nef.or.jp/award/kako/h30/index.html>

■経産省の指定入札機関となっている（一社）低炭素投資促進機構（東京）が、FIT法によるバイオマス第1回入札（平成30年度）の結果について公表。入札が実施されたのはバイオマス液体燃料によるバイオマス発電設備（入札量20MW）と出力10,000kW以上の一般木材等バイオマスによるバイオマス発電設備（入札量180MW）。上限価格は両方とも非公表で入札を実施。11月16日に非公開の調達価格等算定委員会が開催され、その意見を尊重して経済産業大臣が決定（20.60円/kWh）し、開札後に公表された。液体燃料の方は上限価格を下回る応札が無かったため、落札者なし。一般木材等バイオマスの方は相馬共同火力発電（株）（福島）が落札（落札価格19.60円/kWh）。落札された再生可能エネルギー発電設備の出力合計は200万

kWh、バイオマス比率考慮後出力の合計は35,000kW。しかし2019年1月9日付で、期限までに第2次保証金が納付されなかったため、「落札者決定取消し」を再度発表【（一社）低炭素投資促進機構：2018/12/18、2019/01/21】

<https://nyusatsu.teitanso.or.jp/>

<https://nyusatsu.teitanso.or.jp/servlet/servlet.FileDownload?file=00P7F00000Cal1r>

■太陽光発電の国際的な業界団体であるGlobal Solar Council（GSC）が、12月11日、COP24において「グローバルグリーンエネルギー産業評議会（GGEIC）」を設立すると発表。GGEICの使命は、世界でグリーンエネルギー産業の普及促進や発展をさせること。GSC自体も3年前のCOP21で発足したばかりだが、今回のCOP24で太陽光だけでなくバイオマスなどの再生可能エネルギーや蓄電池を含むグリーンエネルギー産業の包括的な国際業界団体に拡大し、より広範な協調を目指すとしている。立ち上げには欧州バイオマス産業協会（EUBIA）等国際的または各地域のグリーンエネルギー関連組織が携わっている【日経XTECH：2018/12/18】

<https://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/news/16/121811798/>

■福島県大熊町、2022年度にも東京電力福島第一原発事故による帰還困難区域の特定復興再生拠点で育てた植物を基にバイオマス発電を開始。町によると発電のためだけに作物を育てる方式は国内初。学識経験者らでつくる町バイオマス活用事業実現可能性検討委員会がいわき市の町役場で開かれ（12月18日）、町の事業方針を了承。拠点内の除染した農地で主にイネ科の植物を育てる。植物を発酵させ、発生したメタンガスでタービンを回し発電する。施設の建設場所や規模は未定【福島民報：2018/12/19】

<http://www.minpo.jp/news/detail/2018121958471>

■農林水産省、「平成31年度農林水産予算概算決定の概要」および「平成30年度第2次農林水産関係補正予算の概要」について公表。詳細は下記サイトを参照【2018/12/20】

<http://www.maff.go.jp/j/budget/31kettei.html>

<http://www.maff.go.jp/j/budget/30hosei2.html>

■四国電力（株）（香川）、西条発電所1号機リプレース計画環境影響評価準備書に対する経済産業大臣勧告を受領したと発

表。1号機（15.6万kW）は運転開始（1965年）以来50年以上経過しており、環境性及び経済性等を評価して石炭を燃料とした最新鋭の超々臨界圧発電設備（USC）にリプレースするとして、2018年4月2日に経産大臣への届出を行い、審査を受けていた。以前から環境対策として混焼してきた木質バイオマスについて、勧告では、「供給状況を踏まえつつ、国内の木質バイオマスの持続可能な利用に最大限努めるとともに、木質バイオマス混焼に係る取組状況について定期的に公表すること」、海外の木質バイオマスを利用する場合については「国際的な森林認証を得た材料の調達」、「燃料調達段階におけるCO₂排出量の把握等」について言及。パリ協定に基づく世界的な温室効果ガス排出削減に向けた対策を進めるよう求めている。今後、四電は勧告内容を踏まえて環境影響評価書を作成し、届出を行う予定【四国電力（株）：2018/12/12】

<http://www.yonden.co.jp/press/re1812/data/pr009.pdf>

■（株）エネット（東京）、城南信用金庫（東京）と、城南信用金庫が購入する全ての電力を実質100%再生可能エネルギー電気とする契約を締結。系統から供給を受ける全電力量の約98%を占める城南信用金庫本支店等の所有物件の電力を「再生可能エネルギー電気（バイオマス発電）」で供給する計画で、2019年1月より開始。残り約2%の賃貸物件等での消費電力量についても、エネットが「J-クレジット（再生可能エネルギー由来）」を2019年5月頃から販売し、CO₂をオフセットする。城南信用金庫は事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が参加するRE100に加盟しており、この契約締結により、RE100加盟の国内企業で初めて100%の目標を達成することに【（株）エネット：2018/12/21】

https://www.ennet.co.jp/news/detail?news_id=119

■福島県大沼郡三島町、木質バイオマス発電で生じた熱を町内に供給した場合の採算性調査を実施。調査は県スマートコミュニティ構築支援事業の一環。町は連携協定を結んでいる国立環境研究所などの協力を得て、医療・福祉施設が集まる町中心部一帯をモデル地区に設定して試算。地域の間伐材などを加工した燃料チップを808t/年分購入し、木質バイオマス発電で生じた電気や熱を売った場合、最大で年間570万円分の黒字が出ると見積もった。12月21日に町内で開いた町民講座で提示。今後、事業化に向けた検討を進める【福島民報：2018/12/22】

<http://www.minpo.jp/news/detail/2018122258598>

■ユナイテッド計画（株）（秋田）が、（株）レノバ（東京）、住友林業（株）（同）との3社共同で宮城県仙台市宮城野区に木質バイオマス発電所開設を計画。建設予定地は仙台港近くにある東日本大震災の集団移転の跡地で、産業集積に向け区画整理事業が進められているエリア。約5万㎡の敷地に高さ約50mのボイラ、蒸気タービン、発電機、排ガス処理設備などを整備する。想定最大出力は約7万5,000kWで、燃料に100%木質バイオマスを使用する発電所としては国内最大級。2020年9月着工、2023年運開を目指す【秋田魁新報：2018/12/24】

<https://www.sakigake.jp/news/article/20181224AK0001/>

■バイオマス発電の比率変更、2019年4月から制約アリに。現状では各区分のバイオマス比率については入札の落札案件を除き、FIT認定取得後の変更（増減）に制度上の制約は設けられておらず、届出によって変更が可能。しかし10月15日開催の「再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会」において、資源エネルギー庁が「バイオマス比率の変更」について言及。認定事業がバイオマス比率を増加させた場合、「再生可能エネルギーの最大限の導入の観点からは望ましい」が、「認定当初には想定されなかった国民負担が事後的に生じることとなる」また「事後的にバイオマス比率を自由に変動させることは、バイオマスに関連する産業全体の安定性を求める制度の趣旨に反する」とした課題を指摘。対応案について10月22日～11月21日までパブリックコメントを実施し、事業者から様々な意見が寄せられたが、12月21日には「既認定案件による国民負担の抑制に向けた対応（バイオマス比率の変更への対応）」を発表。2019年4月1日より施行することに。詳細については下記サイトを参照【環境ビジネスオンライン：2018/12/25、日経エネルギーNEXT：2018/12/29、資源エネルギー庁資料：2018/12/21】

<https://www.kankyo-business.jp/news/021748.php>

<https://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/feature/15/031400070/122900088/>

http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/announce/20181221.pdf

■GSアライアンス（株）（兵庫）、木、竹、廃木材、紙ごみ、食品ごみなどから効率的にバイオエタノールを抽出する方法を自社で開発。バイオマス資源、特に木材などの植物に含まれる

セルコースは頑丈であるため、特殊なプロセスを用いないとグルコースに分解することが難しいが、同社が効率的な手法を開発。今後はこの技術を元にトウモロコシやサトウキビといった農作物でないバイオマスからバイオエタノールの工業的レベルでの生産を目指す【財経新聞：2018/12/26】

<https://www.zaikai.co.jp/releases/735744/>

■資源エネ庁、2018 年度中の FIT 認定申請等にかかる期限日の通知を更新し、発表。同庁は例年年度末に新規/変更認定申請や変更届出の提出が集中することから、年度内の案件として処理を希望する場合の申請・届出期限日を設定している。○バイオマス（他省庁協議必要）の場合、新規/変更認定申請期限日：2018 年 12 月 21 日（金）。○バイオマス（他省庁協議不要）の場合、新規/変更認定申請・事前/事後変更届出期限日：2019 年 1 月 11 日（金）。電力会社との接続同意書類及び環境影響評価方法書に関する手続を開始したことを証する書類の提出期限日（当初の申請時に添付しなかった場合）は、他省庁協議必要/不要の場合とも、2019 年 2 月 8 日（金）が期限。2018 年 12 月 21 日公表のバイオマス比率の変更に係る制度変更を踏まえ、新たに設定されたのは「燃料変更を伴わないバイオマス比率の変更に係る事前変更届出」で、期限日は 2019 年 2 月 28 日（木）【資源エネ庁：2018/12/27】

http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/announce/20180831_2.pdf

■京都府亀岡市、2018 年 9 月 20 日～27 日まで公募していた亀岡市年谷浄化センター消化ガス発電事業の公募型プロポーザル方式による優先交渉権者選定結果について公表。優先交渉権者となったのは、月島機械（株）大阪支社。同事業では下水汚泥を加温して発生する消化ガスを市が事業者へ売却し、事業者が FIT の適用を受けた消化ガス発電を行って有効利用を促進。発電に伴い発生する廃熱は消化槽の加温熱源として有効利用を図り、地球温暖化防止に貢献することを目的としている。2021 年 3 月末までに消化ガス発電施設を浄化センター敷地内に設計・建設し、同年 4 月 1 日から 20 年間運営する計画【亀岡市：2018/12/27】

https://www.city.kameoka.kyoto.jp/gesuidoushomu/shokagas_proposal.html

■北海道上川管内当麻町役場、新庁舎の暖房熱となる木質チップ

の乾燥機能付きの木質バイオマスボイラを稼働。自治体が木質バイオマスを導入するには、乾燥工場を整備して乾燥チップを生産し、複数箇所消費するのが一般的。同町では町森林組合が端材から生チップを作っているが町内に乾燥工場はなく、工場整備には建物だけで 1 億円以上かかる試算だったため、生チップを直接使えるボイラを採用。道水産林務部によると道内の自治体では初の取り組み【北海道新聞：2019/01/01】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/263459>

■京セラコミュニケーションシステム（株）（京都、以下「KCCS」）、100%再生可能エネルギーゼロエミッション・データセンターの開業に向けた取り組みを、2019 年 4 月から北海道石狩市で開始すると発表。同センターでは太陽光、風力、バイオマスで発電した電力を自営線で結び、発電所から直接供給する。発電所から再エネが直接供給され、再エネ 100%で稼働するデータセンターは日本初。また地域の特性を活かし、夏場は冬に貯めた雪でサーバを冷却する雪氷冷房を備える。2019 年 4 月から着工し 2021 年中に稼働開始予定。太陽光、風力、バイオマス発電と順次連携し、2022 年に再エネ 100%で稼働する計画。KCCS は同事業を通じて再エネ利用の可能性を実証する。また培ったノウハウを基に再エネ事業を多面的に展開し、再エネ関連事業として 2024 年に 300 億の売上を目指す【KCCS：2019/01/07】

<https://www.kccs.co.jp/news/release/2019/0107/>

■岡山県の美作地域 10 市町村を中心とした企業の出資でつくる地域新電力会社「美作国（みまさかのくに）電力」が 1 月 7 日、エリア内で今夏から電力供給サービスを開始すると発表。各種発電事業者が手掛けた電力や一般家庭の太陽光パネルで発電した余剰電力、バイオマス発電、小水力発電による地域電力を買い取り、電力大手より安く売り出す計画。初年度の供給電力量は一般家庭 6 千世帯分に当たる約 2 万 5 千 MWh を想定。全量をエリア外の新電力から購入し、約 4 億円の売り上げを見込む。翌年度以降、地元からの供給量を増やし、最終的に 50%を地域の発電事業者から調達し、残りは大手電力や新電力会社で賄う。送配電は既存の電力網を利用する契約を結んでおり、2 月から試験供給をスタート。一般向けの電力販売契約は 4 月から受け付ける。美作地域の消費電力需要を 400 億円/年と試算。5 年後にエリアの全電力需要の 10%に当たる 40 億円を売り上げ目標に掲げる【山陽新聞：2019/01/07】

http://www.sanyonews.jp/article/849172/1/?rct=chihou_keizai

■経産省の調達価格等算定委員会、2018年10月より検討を行ってきた平成31年度以降の調達価格等について委員会の意見を取りまとめ、公表（1月9日）。委員会では石炭とバイオマスの混焼案件のFIT制度上の取り扱いについて議論するため、全事業者（54件）に対しコストデータを収集し、検証。その結果、一般木材等・未利用材・建設資材廃棄物については資本費、運転維持費は現在の想定値より大きく下回ると判断。このため一般木材等バイオマス発電の入札対象範囲（2018年度＝10,000kW以上）、入札対象範囲外（2018年度＝10,000kW未満）・未利用材・建設資材廃棄物は2019年度から入札制度の対象外に。バイオマス部分について従来の調達価格を維持したまま石炭部分について容量市場の適用を受けるのは適切ではないため、2018年度以前に既に認定を受けた案件が容量市場の適用を受ける場合もFIT制度の対象外に。一般廃棄物その他バイオマスとの混焼についてはFIT制度から自立して事業を実施することが可能なコスト水準にあると考えられることから、

2021年度よりFIT制度の新規認定対象外とし、2020年度以前に認定を受けた案件が容量市場の適用を受ける場合はFIT制度の対象から外すこととなった【経産省：2019/01/09】

http://www.meti.go.jp/shingikai/santei/20190109_report.html

■蒜山高原、バイオマス発電所等、岡山県真庭市の名所や特産、施策が小学校や高校の教科書に次々登場。「高校現代社会」（実教出版）は、第1章「地球環境を考える」の冒頭で、里山資本主義のモデルとして紹介。バイオマス発電所の建設などエネルギーの地産地消化に向けた挑戦を、発電所の写真とともに見開き2ページに収録。2011年度から岡山県を特集してきた「小学社会3・4年(下)」（日本文教出版）は2015年度の改訂で、バイオマス事業やひるぜん焼そばを追加。豊かな自然環境や、自然エネルギーの導入といった先進的な取り組みが評価されている【山陽新聞：2019/01/09】

<http://www.sanyonews.jp/article/850180/1/?rct=kyouiku>

2. ペレット関連情報

■出光興産（株）（東京）、タイにブラックペレット工場建設へ。12月6日都内で開催した「第15回アポロエナジーミーティング」に先立ち行った、バイオマス特別講演で明らかに。タイの地元企業2社と共同で、同国スラタニー県に10万t/年レベルの工場を建設する。既にデモプラントが完成しており、製法の検討とサンプル出荷を開始。原料は樹液の出なくなったゴムの木を使う。将来的にはタイ各地に工場を建設し、生産を拡大する計画。自社製造以外にもインドネシアのブラックペレット製造者からの仕入れ販売も行う方針で、日本市場への独占販売権について合意。タイのプラント建設は2019年着工予定。全量を日本で販売する【日刊ケミカルニュース：2018/12/10】
<https://chemical-news.com/2018/12/10/%E5%87%BA%E5%85%89%E8%88%88%E7%94%A3%E3%80%80%E3%82%BF%E3%82%A4%E3%81%AB10%E4%B8%87%EF%BD%94%E8%A6%8F%E6%A8%A1%E3%81%AE%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%9A%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%88%E5%B7%A5/>

■バイオマス発電、林業の人手不足や燃料輸入頼みでFIT認定

を受けた案件の8割以上が稼働せず。2018年3月時点で政府がFIT認定しているバイオマス発電の容量は約740万kWだが、稼働したのは約130万kWと2割弱。木質ペレットの国内生産量は過去5年間ほぼ横ばい。一方輸入量は5年間で約6倍に増加しており、「自給率」は約2割に低下。ただ輸入燃料を確保できている事業者は一部に限られると見られ、多くが稼働できない状態。大規模発電所ではほぼ燃料の全量を輸入に頼らざるを得ない事態に直面。調達網を広げるために三菱商事（株）（東京）や丸紅（株）（同）はエンビーヴァ（米）と2021年から150万t/年の長期契約を結び、三井物産（株）（東京）はアルタス・リニューアブルズ（豪）と2018年10月に10万tを10年間供給する契約を締結。イーレックス（株）（東京）は東南アジアのPKS集積所に出資し、自ら燃料調達。PKSは環境破壊につながるとの声も多く、ペレットについてもプラスチックの代わりに木材を使う動きが世界的に広がるなど、市場環境が一変する可能性も。11月末の自民党の再生エネを巡る議連では、国産材の活用を重要視する声が上がったが、バイオマス発電を持続可能なエネルギー源とするためには燃料のコスト低減を促す仕組みのほか、林業の活性化が必要【日本経済新聞：

2018/12/11】

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ038774900R11C18A2000000/?ct=ga>

■ラオスの首都ビエンチャンで 12 月 10 日、国内初となるバイオ燃料研究所「バイオマス技術情報研究センター (BTILC)」が開所 (同国初)。バイオマス発電の利用拡大のほか、発電燃料となる木質ペレットの生産に向けた起業支援、投資の促進などに取り組む【NNA ASIA アジア経済ニュース：2018/12/12】
<https://www.nna.jp/news/show/1846939>

■環境省関東地方環境事務所が保有するストーブ、ボイラ向けの燃料用木質ペレットの調達で、富士総業 (株) (静岡) がボイラ用を 2014 年度以来 5 連続で落札。入・開札は 10 月 23 日実施。対象期間は 2018 年 11 月から翌年 3 月末までの今年度分【OSR No.351：2018/12/12】

■響灘エネルギーパーク合同会社 (福岡) の「ひびき灘石炭・バイオマス発電所 (最大出力 112,000kW) が 2018 年 12 月 1 日に運転開始。使用燃料は石炭、木質ペレット、木質チップで、熱量比で約 30%の木質バイオマス燃料を混焼できるのが特徴。EPC は三菱日立パワーシステムズ (株) (神奈川)。年間予想発電量は、一般家庭約 23 万世帯分の年間消費電力量相当となる約 8 億 1,600 万 kWh。同発電所の電力は、オリックス (株) (東京) が小売り電気事業者として九州エリアをはじめとする各地の事業所に供給する【OSR No.352：2018/12/19、響灘エネルギーパーク合同会社：2018/12/13】
<https://hibikinada.energy-park.jp/files/pdf/20181213.pdf>

■大和エナジー・インフラ (株) (東京、以下 DEI)、トレファクション・テクノロジーに関するリーディングカンパニーであり、「バイオ・コール」の生産技術を保有するプラントエンジニアリング会社の Bioendev AB (スウェーデン) が実施する第三者割当増資の引き受けに関する契約を 2018 年 12 月 5 日付で締結。12 月 14 日には Bioendev が自社サイトにて、DEI が同社株式の 40%を取得したことを公表。バイオ・コールは、木質バイオマス等有機廃棄物を 200~300℃で熱分解することで炭素成分が多い物質にするトレファクションにより生成される燃料。DEI は今後、社外取締役の派遣や本件増資による Bioendev の強固な経営基盤構築だけでなく、自社が有するグローバルネッ

トワークや再生可能エネルギー分野におけるノウハウを活用した協議体制を確立させる。また DEI と資本業務提携先のバイオマス・フューエル (株) (東京) が推進するベトナムにおける木質ペレット工場建設等の共同事業に Bioendev が加わることで、バイオマス燃料関連事業の技術面での進化と北米を含むグローバルな事業展開をさらに加速させる。ベトナムのペレット工場は同国ゲアン省ビン、ベトナム・シンガポール工業団地内に建設する予定。工場建設費約 3,000 万米ドル、生産能力 20 万 t/年、製造オペレーションはバイオマス・フューエルの現地法人 BIOMASS FUEL VIETNAM COMPANY LIMITED が行う。2018 年 12 月 12 日には現地で地鎮祭 (起工式) を実施。2020 年年初稼働予定【OSR No.352：2018/12/19、Bioendev AB：2018/12/14、DEI：2018/12/6、2018/09/07】

<http://www.bioendev.se/2018/12/japanese-investment-bank-daiwa-invests-in-bioendev/>

<http://www.daiwa-ei.jp/news/pdf/20181206.pdf>

<http://www.daiwa-ei.jp/news/pdf/20180907.pdf>

■林野庁、「『平成 29 年木質バイオマスエネルギー利用動向調査』の結果 (確報) について」プレスリリース。全国 1,447 事業所を調査対象とし、そのうち 1,398 事業所から回答を得た (回答率 97%)。平成 29 年にエネルギーとして利用された木質バイオマスの量は、木材チップが 873 万絶乾 t (前年比 12.8%増)、木質ペレットが 38 万 t (前年比 75.2%増)、薪が 6 万 t (前年比 27.5%増)、木粉 (おが粉) が 41 万 t (前年比 25.8%増) で、木材チップのうち、間伐材・林地残材等に由来するものは 263 万絶乾 t (前年比 37.4%増)。木質バイオマスを利用する発電機の数 は 264 基 (前年から 24 基増)、ボイラの数 は 2,058 基 (前年から 86 基増)。その他公的補助の活用状況や、これら調査の都道府県別の集計結果も公表している。詳細は下記サイトを参照【林野庁：2018/12/20】

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/riyou/181220.html>

■住友林業 (株) (東京)、筑波研究所の新研究棟の建方 (構造材を組み上げていく工事) を 12 月 4 日に完了したと発表。新研究棟は、創業 350 周年を目標に高さ 350m の木造超高層建築物の建築を目指す研究技術開発構想「W350 計画」の研究拠点となるもので、「木を科学する」先進技術や木に関する幅広い知見を発信する拠点として位置づける。新研究棟は木造 3 階建て、延床面積 2,532.67 m²。屋上面にソーラーパネルを設置するほか、

木質ペレット焚吸収冷温水機の導入でCO₂排出量を大幅に削減。ゼロエネルギービルディング（ZEB）の実現も視野に入れ、省エネや再生エネルギーを利用していく。同施設は国交省の推進する「平成 29 年度サステナブル建築物等先導事業（木造型）」に採択されている。敷地内の整備も含めた総事業費は約 25 億円。2019 年 5 月の建物完成を目指す【住友林業（株）：2018/12/20、新建ハウジング：2018/12/21】

<https://sfc.jp/information/news/2018/2018-12-20.html>

<https://www.s-housing.jp/archives/153142>

■（株）奥村組（大阪）、シンエネルギー開発（株）（群馬）が開発を進める「石狩バイオマス発電事業」に参画へ。シンエネルギー開発が設立した SPC（特別目的会社）「石狩新港新エネルギー発電合同会社」について、同社の出資持分を奥村組が譲り受ける持ち分譲渡契約書を締結（2018 年 12 月 27 日）。同事

業は、北海道石狩市と小樽市に位置する石狩湾新港地域（石狩湾新港工業団地）内の敷地約

5 万㎡（5ha）に発電出力 51.5MW のバイオマス専焼火力発電所を建設するもので、燃料は木質ペレットおよび PKS を海外から輸入。年間発電量は一般家庭約 12.1 万世帯相当の約 3.6 億 kWh の見込み。FIT 認定を受けており、運転開始後 20 年間北海道電力（株）（北海道）に売電する（24 円/kWh）。ボイラおよび発電機のメーカーは現在、選定中。EPC（設計・調達・施工）サービスは、東洋エンジニアリング（株）（千葉）と契約を締結。2019 年 11 月着工、2022 年 10 月運開を目指す【（株）奥村組：2018/12/27、日経 XTECH：2019/01/08】

<https://www.okumuragumi.co.jp/newsrelease/data/181227.pdf>

<https://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/news/16/010811854/>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

◆（公社）大日本山林会木材サミット連絡会「大日本山林会・木材サミット連絡会合同シンポジウム 持続可能な社会に向けて -木材利用と地球環境-」

月日 2019 年 1 月 28 日（月）

場所 三会堂ビル 9 階石垣記念ホール（東京都港区）

http://www.jwrs.org/181119SanrinkaiMokuzaiSummit_Symposium.pdf

◆北海道、（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会「木質バイオマスエネルギー地域実践家研修会」

月日 2019 年 1 月 28 日（月）～29 日（火）

場所 28 日：浦河町（日高振興局）

29 日：様似町（ひだか南森林組合 小型木質バイオマスボイラー導入施設等）

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/baiokensyu-htm>

◆バイオマス産業社会ネットワーク(BIN)第 180 回研究会「海外における木質バイオマスエネルギー推進についての最近の論調、産官学が直面する新たな課題」（仮題）

月日 2019 年 1 月 29 日（火）

場所 地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）

<http://www.npobin.net/apply/>

◆WOOD コレクション（モクコレ）2019 実行委員会「WOOD コレクション（モクコレ）2019」

月日 2019 年 1 月 29 日（火）～30 日（水）

場所 東京ビッグサイト東 7・8 ホール（東京都江東区）

https://www.sekai2020.tokyo/20180625_mokucolle/

◆nano tech 実行委員会「nano tech 2019 第 18 回 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」

月日 2019 年 1 月 30 日（水）～2 月 1 日（金）

場所 東京ビッグサイト東 4-6 ホール&会議棟（東京都江東区）

<https://www.nanotechexpo.jp/main/>

◆東京都環境局「平成 30 年度東京都環境建築フォーラム」

月日 2019 年 1 月 31 日（木）

場所 四谷区民ホール（東京都新宿区）

<http://www7.kankyo.metro.tokyo.jp/building/forum/forum2018/>

[info.html](#)

◆（一財）省エネルギーセンター「ENEX2019 第43回地球環境とエネルギーの調和展」

月日 2019年1月30日（水）～2月1日（金）

場所 東京ビッグサイト東1・2ホール（東京都江東区）

<https://www.low-cf.jp/east/>

◆Jtb Communication Design「Inter Aqua 2019 第10回国際水ソリューション総合展」

月日 2019年1月30日～2月1日

場所 東京ビッグサイト東1ホール&会議棟（東京都江東区）

<https://www.interaqua.jp/>

◆環境省「持続可能な森林経営のためのフォレストパートナーシップセミナー」

月日 2019年2月1日（金）

場所 日比谷図書文化館小ホールスタジオプラス（東京都千代田区）

<https://www.gef.or.jp/news/event/fpp2019/>

◆国立研究開発法人科学技術振興機構 nano week 2019 JSTシンポジウム「バイオマスリファイナリー・バイオマテリアルの革新：低炭素社会の実現に向けて」

月日 2019年2月1日（金）

場所 東京ビッグサイト会議棟6階 606会議室

<https://www.jst.go.jp/alca/event/event20190201.html>

◆次世代エネルギーワークショップ推進委員会「次世代エネルギーワークショップ(若手社会人編)」

月日 2019年2月1日(金)～2月2日(土)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

<http://inst-dep.com/info/2263362>

◆バイオマス産業都市推進協議会「バイオマス産業都市推進シンポジウム」

月日 2019年2月5日（火）

場所 タワーホール船堀5階小ホール（東京都江戸川区）

http://www.jora.jp/biomass_toshi/index.html

◆宮城県「第2回宮城県木質バイオマス活用研修会」

月日 2019年2月5日（火）

場所 TKP ガーデンシティ仙台 ホール21D（宮城県仙台市）

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-s/h30-mokushitsu.html>

◆信州大学繊維学部/（一社）NECO（自然エネルギー共同設置推進機構）「地域とエネルギー 木質バイオマス講演会～チップボイラーによる熱供給～ 持続可能な『森林と熱エネルギー利用』」

月日 2019年2月6日（水）

場所 上田駅前パレオ2階会議室（長野県上田市）

<https://www.neco.or.jp/archives/875.html>

◆（一社）日本森林技術協会「平成30年度『地域内エコシステム』構築事業 成果報告会」

月日 2019年2月6日（水）

場所 大阪コロナホテル別館2階200A会議室（大阪府大阪市）

<http://wb-ecosys.jp/>

◆NPO法人農都会議/日本サステナブルコミュニティ協会共同開催「サステナブルコミュニティ シンポジウム～再生可能エネルギーでつくる未来社会、官民一体できりひらく地方創生～」

月日 2019年2月6日（水）

場所 専修大学 神田キャンパス 7号館 731教室（東京都千代田区）

<http://blog.canpan.info/bioenergy/archive/233>

◆（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所 REDD 研究開発センター「平成30年度国際セミナー『REDD プラスはどこまで来たか？ 機会を活かすために』」

月日 2019年2月6日（水）

場所 東京大学 伊藤謝恩ホール（東京都文京区）

http://redd.ffpri.affrc.go.jp/events/seminars/2019/20190206_ja.html

◆【関西広域連合主催】再エネ導入促進に向けた人材育成研修会「再生可能エネルギーによる持続可能な関西の実現に向けて」～「しがエネルギームーブメント！」動画上映会～

月日 2019年2月7日(木)

場所 大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)12階会議室1202(大阪府大阪市)

<http://www.pref.shiga.lg.jp/hodo/e-shinbun/ai00/20181206.html>

◆川崎国際環境技術展実行委員会「第11回川崎国際環境技術展 / 未来を創る川崎イノベーション展(Kawasaki Eco Tech)」

月日 2019年2月7日(木)～8日(金)

場所 カルツかわさき(神奈川県川崎市)

<https://www.kawasaki-eco-tech.jp/>

◆林野庁、他「平成30年度林業機械化推進シンポジウム」

月日 2019年2月8日(金)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール(東京都渋谷区)

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kaihatu/181226.html>

◆NPO法人農都会議 地域支援セミナー『森林資源活用セミナー』—森林環境税で変わる森林・林業、津久井産材活用に向けて—

月日 2019年2月11日(月・祝)

場所 サンエールさがみはら第1研修室(神奈川県相模原市)

<http://blog.canpan.info/bioenergy/archive/241>

◆経産省近畿経済産業局「エネルギー使用合理化シンポジウム in 関西」

月日 2019年2月12日(火)

場所 グランキューブ大阪(大阪府大阪市北区)

<https://e-gorika.go.jp/>

◆経産省近畿経済産業局「バイオマスセミナー in 大阪～都市バイオマスの有効活用から、新たな価値の創出へ！～都市編」

月日 2019年2月13日(水)

場所 施設見学会：大阪市平野下水処理場(大阪府大阪市)
セミナー：大阪国際交流センター3階「銀杏」(同上)

[http://www.kansai.meti.go.jp/3-](http://www.kansai.meti.go.jp/3-6kankyo/H30fy/biomass0213.html)

[6kankyo/H30fy/biomass0213.html](http://www.kansai.meti.go.jp/3-6kankyo/H30fy/biomass0213.html)

◆(一社)日本森林技術協会「スマート林業を目指して！林野庁委託事業平成30年度スマート林業構築普及展開事業報告会」

月日 2019年2月13日(水)

場所 主婦会館プラザエフ9階スズラン(東京都千代田区)

http://www.jafta.or.jp/contents/information/357_list_detail.html

◆(一社)日本森林技術協会「林業成長産業化で地域活性！林野庁委託事業平成30年度林業成長産業化地域の取組の分析・評価等に係る調査委託事業報告会」

月日 2019年2月14日(木)

場所 主婦会館プラザエフ9階スズラン(東京都千代田区)

http://www.jafta.or.jp/contents/information/357_list_detail.html

◆大径材強度予測共同研究機関、他 公開シンポジウム「大径材がかがやきを放つために」

月日 2019年2月14日(木)

場所 石川県地場産業振興センター新館第10研修室(石川県金沢市)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2019/20190214sympo-taikei/index.html>

◆NPO法人の木トークカフェ「環境木化都市の実現とSDGs～持続可能な開発目標から、判りやすく紐解く未来構想～」

月日 2019年2月16日(土)

場所 東京大学弥生講堂アネックスセイホクギャラリー(東京都文京区)

http://www.jwrs.org/board/190110_Sainoki_TalkCafe.pdf

◆認定NPO法人 芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館「第6回木育サミット in 徳島」

月日 2019年2月16日(土)

場所 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)(徳島県徳島)

市)

<http://goodtoy.org/ms/>

◆EARTH VISION 多摩実行委員会「2019 EARTH VISION 多摩 映画会」

月日 2019年2月16日(土)

場所 パルテノン多摩小ホール(東京都多摩市)

<https://taenoha.com/ev>

◆(特非)森のライフスタイル研究所「クロマツの植林2,000本。九十九里で行う森ライの震災復興活動。お昼は漁師料理の店へ。いちご狩りも。」

月日 2019年2月16日(土)

場所 蓮沼殿下海岸林(千葉県山武市)

https://moridukuri.or.jp/event/20190216_hasunuma/

◆(一社)産業環境管理協会産業と環境の会センター「環境金融と環境保全対策に関するシンポジウム」

月日 2019年2月18日(月)

場所 東海大学校友会館望星の間(霞ヶ関ビル35階)(東京都千代田区)

<http://www.sankankai.com/sym190218.shtml>

◆森林GISフォーラム「森林GISフォーラム東京大会2019」

月日 2019年2月20日(水)

場所 鉄鋼会館9階(東京都中央区)

<http://fgis.jp/archives/1235>

◆(一社)日本森林技術協会「平成30年度『地域内エコシステム』構築事業 成果報告会」

月日 2019年2月21日(木)

場所 スクワール麴町3階錦華の間(東京都千代田区)

<http://wb-ecosys.jp/>

◆(一財)地球・人間環境フォーラム 第35回フェアウッド研究部会「江戸にえらばれた西川材～22世紀につなぐ」

月日 2019年2月22日(金)

場所 地球環境パートナーシッププラザ(東京都渋谷区)

https://www.fairwood.jp/news/pr_ev/2019/190222_ev_fwken

<kyu35.html>

◆グリーンイメージ国際環境映像祭実行委員会「第6回グリーンイメージ国際環境映像祭」

月日 2019年2月22日(金)～2月24日(日)

場所 日比谷図書文化館コンベンションホール(東京都千代田区)

<https://green-image.jp/filmfestivals/6th/>

◆リードエグジビションジャパン(株)「スマートエネルギーWeek 2019」

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<http://www.reedexpo.co.jp/ja/Expo/207372/Week>

◎リードエグジビションジャパン(株)「第4回 国際バイオマス発電展」

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<http://www.reedexpo.co.jp/ja/Expo/1166848>

■リードエグジビションジャパン(株)「第2回 地方創生EXPO」

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 幕張メッセ(4-7ホール)(千葉県千葉市)

<https://www.sousei-expo.jp/>

■(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会 平成30年度林野庁補助事業成果報告セミナー

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 東京ビッグサイト東8ホール(東京都江東区)

<https://www.jwba.or.jp/2019/01/17/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E6%83%85%E5%A0%B1-%E5%B9%B3%E6%88%9030%E5%B9%B4%E5%BA%A6-%E6%9E%97%E9%87%8E%E5%BA%81%E8%A3%9C%E5%8A%A9%E4%BA%8B%E6%A5%AD-%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E5%86%85%E3%82%A8%E3%82%B3%E3%82%B7%E3%82%B9%E3%83%86%E3%83%A0-%E6%A7%8B%E7%A4%89%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E9%96%A2%E9%80%A3-%E3%81%AE%E6%88%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E4%BC%9A%E3%82%92%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%97%E3%81%BE>

[E3%81%99/](#)

■岩手・木質バイオマス研究会「第13回定例セミナー『地方都市における薪流通の実態と供給主体の経営に関する研究—岩手県盛岡市を中心として—』

月日 2019年3月8日(金)

場所 アイーナ7階 県立大学アイーナキャンパス学習室4
(岩手県盛岡市)

<https://wbiwate.jimdo.com/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E6%83%85%E5%A0%B1/>

■日報ビジネス(株)「2019NEW 環境展」

月日 2019年3月12日(火)~15日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<http://www.nippo.co.jp/n-expo019/index.htm>

■日報ビジネス(株)「2019 地球温暖化防止展」,「STOP 地球温暖化! 推進フォーラム」

月日 2019年3月12日(火)~15日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.nippo.co.jp/stop-ondanka19/>

■日報ビジネス(株)「STOP 地球温暖化! 推進フォーラム」

月日 2019年3月12日(火)~15日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<http://www.nippo.co.jp/stop-ondanka19/forum.htm>

■(一社)日本木材学会「第69回日本木材学会大会(函館大会)」

月日 2019年3月14日(木)~16日(土)

場所 函館アリーナ(北海道函館市)

<http://www.jwrs.org/wood2019/index.html>

■(一社)日本森林学会「第130回日本森林学会大会」

月日: 2019年3月20日(水)~23日(土)

場所: 新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」(新潟県新潟市)

<https://www.forestry.jp/>

©10th Biomass Pellets Trade & Power

月日 2019年5月13日(月)~16日(木)

場所 東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=190501&>

■バイオマスエキスポ実行委員会「バイオマスエキスポ2019」

月日 2019年6月5日(水)~6月7日(金)

場所 東京ビッグサイト青海展示棟(東京都江東区)

<https://www.biomassexpo.info/expo/>

■第14回再生可能エネルギー世界展示会(RE2019)

月日 2019年7月10日(水)~7月12日(金)

場所 パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

<http://www.renewableenergy.jp/>

◎バイオマスエキスポ実行委員会

・「次世代森林産業展2019 FORESTRISE 2019 Innovative & Integrative Woods Industries」

・「バイオマスエキスポ2019 Nagano」

月日 2019年8月1日(木)~8月3日(土)

場所 ビッグハット/若里ホール(長野県長野市)

<http://www.forestrise.jp/>

■日本経済新聞社文化事業局イベント事業部「エコプロ2019」

月日 2019年12月5日(木)~7日(土)

場所 東京ビッグサイト西・南ホール(東京都江東区)

<http://eco-pro.com/2018/outline/001304.html>

■ISAP2020 日本開催組織委員会「国際応用藻類学会第7回大会(ISAP2020)」

月日 2020年4月20日(月)~24日(金)

場所 幕張メッセ(千葉県千葉市)

<http://v4.eir->

parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1627880

■日報ビジネス(株)「2020 地球温暖化防止展」

月日 2020年4月22日(水)~24日(金)

場所 インテックス大阪(大阪府)

<http://www2.nippo.co.jp/stop-ondanka18/>

4. イベント情報 (海外)

◆Agroforestry and Its Contribution Towards Achieving SDGs

月日 2019年1月28日(月)

場所 ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/agroforestry-and-its-contribution-towards-achieving-sdgs/>

◆BOIS ENERGIE

月日 2019年1月30日(水)~31日(木)

場所 レヌ(フランス)

<https://www.boisenergie.com/en/>

◆Biogaz Europe

月日 2019年1月30日(水)~31日(木)

場所 レヌ(フランス)

<https://www.biogaz-europe.com/en/>

◆ReGen Europe

月日 2019年1月30日(水)~31日(木)

場所 レヌ(フランス)

<https://www.regen-europe.com/en/>

◎Nordic Pellets Conference 2019

月日 2019年2月6日(水)~7日(木)

場所 ヴァールベリ(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-2019/>

◎4th Biomass Trade and Power Europe

月日 2019年2月12日(火)~13日(水)

場所 コペンハーゲン(デンマーク)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=190203&>

◆LIGNOFUELS 2019

月日 2019年2月13日(水)~14日(木)

場所 オスロ(ノルウェー)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/lignocellulosic-fuel-conference-europe/>

◆9th ISCC Global Sustainability Conference

月日 2019年2月14日(木)

場所 ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.iscc-system.org/stakeholders/annual-iscc-global-sustainability-conference/>

◎BAUEN & ENERGIE WIEN 2019

月日 2018年2月14日(木)~17日(日)

場所 ウィーン(オーストリア)

<https://www.bauen-energie.at/en/home/>

◎European Pellet Conference 2019

月日 2019年2月26日(火)~28日(木)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/programme/european-pellet-conference.html>

◆12th Carbon Dioxide Utilization Summit 2019

月日 2019年2月27日(水)~28日(木)

場所 テキサス州ヒューストン(USA)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/co2-us/>

◆ENEX/ENEX New Energy

月日 2019年2月27日(水)~3月1日(金)

場所 キエルツェ(ポーランド)

<http://targikielce.pl/pl/enex.htm>

◆World Sustainable Energy Days 2019

月日 2019年2月27日(水)~3月1日(金)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/world-sustainable-energy-days.html>

◎European Pellet Conference 2019

月日 2019年2月27日(水)~28日(木)

※2月26日(火)にテクニカルツアー有

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/programme/european-pellet-conference.html>

◆Argus Biomass to Power Day

月日 2019年3月5日(火)

場所 シンガポール(シンガポール)

<https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biomass-to-power-day>

◆Argus Biomass

月日 2019年3月6日(水)~7日(木)

場所 シンガポール(シンガポール)

<https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biomass-asia>

◆ISH 2019

月日 2019年3月11日(月)~15日(金)

場所 フランクフルト(ドイツ)

<https://ish.messefrankfurt.com/frankfurt/en.html>

◆Dubai Wood Show

月日 2019年3月12日(火)~14日(木)

場所 ドバイ(アラブ首長国連邦)

<http://www.dubaiwoodshow.com/>

◆Gasification 2019

月日 2019年3月13日(水)~14日(木)

場所 ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/gasification/>

◆Sweet 2019 - Solar, Wind & Earth Energy Trade Fair

月日 2019年3月13日(水)~3月15日(金)

場所 光州(韓国)

<https://www.sweet.or.kr/fairDash.do>

◆Las-Expo Kielce

月日 2019年3月15日(金)~17日(日)

場所 キェルツェ(ポーランド)

<https://www.tradefairdates.com/Las-Expo-M4201/Kielce.html>

◆2019 International Biomass Conference & Expo

月日 2019年3月18日(月)~20日(水)

場所 ジョージア州サバンナ(USA)

<http://biomassmagazine.com/events/browse/>

◆Value of Biogas 2019 EAST

月日 2019年3月21日(木)~22日(金)

場所 オンタリオ州トロント(カナダ)

<http://www.biogasassociation.ca/vob2019%20>

◆FORST live

月日 2019年3月29日(金)~31日(日)

場所 オッフエンブルク(ドイツ)

<https://www.forst-live.de/en/forst-live-en>

◆WORLD BIO MARKETS

月日 2019年4月1日(月)~3日(水)

場所 アムステルダム(オランダ)

<https://www.biobasedworldnews.com/events/world-bio-markets>

◆International Green Energy Expo & Conference 2019

月日 2019年4月3日(水)~5日(金)

場所 Exhibition Hall, EXCO(韓国)

<http://www.energyexpo.co.kr/eng/>

◆Argus Biomass 2019

月日 2019年4月8日(月)~10日(水)

場所 ロンドン(UK)

<https://www.argusmedia.com/ja/conferences-events-listing/biomass>

◆9th European Algae Industry Summit

月日 2019年4月10日(水)~11日(木)

場所 リスボン(ポルトガル)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/european-algae-industry-summit/>

◆RoEnergy

月日 2019年4月10日(水)~12日(金)

場所 ブカレスト(ルーマニア)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/roenergy/>

◆14th Exhibition & Conference for South-East Europe –Energy Efficiency & Renewables-

月日 2019年4月16日(火)～18日(木)

場所 ソフィア(ブルガリア)

<https://viaexpo.com/en/pages/ee-re-exhibition>

◆Waste EXPO

月日 2019年5月6日(月)～9日(木)

場所 ネバダ州ラスベガス(USA)

<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

◆6th Africa Oil Palm & Rubber Summit

月日 2019年5月8日(水)～9日(木)

場所 アビジャン(コートジボアール)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=190512&>

◆ALL-ENERGY EXHIBITION AND CONFERENCE 2019

月日 2019年5月15日(水)～16日(木)

場所 グラスゴー(UK)

<http://www.all-energy.co.uk/>

◆ENVEX 2019 The 41st International Exhibition on Environmental Technology & Green Energy

月日 2019年5月15日(水)～17日(金)

場所 ソウル(韓国)

<http://www.envex.or.kr/kor/main/index.asp>

◆FORLENER

月日 2019年5月17日(金)～19日(日)

場所 エルバ(イタリア)

<http://www.forlener.it/default.aspx?idC=186>

◆6th International Conference on Renewable Energy Gas Technology, REGATEC 2019

月日 2019年5月20日(月)～21日(火)

場所 マルメ(スウェーデン)

<http://regatec.org/>

◆EUBCE 2019

月日 2019年5月27日(月)～30日(木)

場所 リスボン(ポルトガル)

<http://www.eubce.com/>

◆LIGNA 2019

月日 2019年5月27日(月)～31日(金)

場所 ハノーバー(ドイツ)

<http://www.ligna.de/home>

◆Asean Sustainable Energy Week 2019

月日 2019年6月5日(水)～8日(土)

場所 バンコク(タイ)

<http://www.asew-expo.com/>

◆SkogsElmia

月日 2019年6月6日(木)～8日(土)

場所 ヨンショーピン(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/SkogsElmia/>

◆35th Annual International Fuel Ethanol Workshop & Expo

月日 2019年6月10日(月)～12日(水)

場所 インディアナ州インディアナポリス(USA)

<http://www.fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

◎VICTAM INTERNATIONAL 2019

月日 2019年6月12日(水)～14日(金)

場所 ケルン(ドイツ)

<https://victaminternational.com/>

◆ASTURFORESTA

月日 2019年6月20日(木)～22日(土)

場所 ティネオ(スペイン)

<http://en.asturforesta.es/>

◆25. Internationale Forstmesse

月日 2019年8月15日(木)～18日(日)

場所 ルツェルン(スイス)

<http://www.forstmesse.com/htm/home.htm>

◆POWERGEN Asia Conference & Exhibition

月日 2019年9月3日(火)～5日(木)
場所 クアラルンプール(マレーシア)
<https://www.powergenasia.com/en/index.html>

◆Forest Romania 2019

月日 2019年9月5日(木)～7日(土)
場所 ジジン(ルーマニア)
<http://www.forestromania.com/en/>

◆Advanced Biofuels Conference

月日 2019年9月17日(火)～19日(木)
場所 ストックホルム(スウェーデン)
<https://www.svebio.se/en/evenemang/advanced-biofuels-conference-2/>

◆EXPOBIOMASA 2019

月日 2019年9月24日(火)～26日(木)
場所 バリャドリッド(スペイン)
<https://www.expobiomasa.com/>

◆EFE 2019 - 3rd Trade Fair for Energy Efficiency in Industry

月日 2019年10月2日(水)～3日(木)
場所 クラクフ(ポーランド)
<http://www.efe.krakow.pl/gb/>

◆Austrofoma 2019

月日 2019年10月8日(火)～10日(木)

場所 エステルハージー・フォルヒテンシュタイン(オーストリア)
<http://www.austrofoma.at/en/allgemeine-infos.html>

◆Progress in Biomethane Mobility

月日 2019年10月15日(火)～17日(木)
場所 シュヴェービッシュ・ハル(ドイツ)
<http://www.ibbk-biogas.de/en-gb/conference-biomethane-mobility-oct2019>

◎Biomass Brno

月日 2020年3月31日(火)～4月4日(土)
場所 ブルノ(チェコ共和国)
<https://www.bvv.cz/en/biomass/>

◆KWF Tagung 2020

月日 2020年7月1日(水)～4日(土)
場所 ヘッセン州シュヴァルツェンボルン(ドイツ)
<http://www.kwf-tagung.org/kwf-tagung.html>

◆Elmia Wood

月日 2021年6月2日(水)～5日(土)
場所 ヨンショーピン(スウェーデン)
<https://www.elmia.se/wood/>

5. 公募等情報(締切順)

◇青森県西目屋村「新しい森づくり」地域おこし協力隊募集!
応募期限 2019年1月31日(木)
<http://www.nishimeya.jp/sonsei/tiikishinkou/jinzai/post-77.html>

◇あわら市観光協会「もりもりバイオマス視察研修」参加者募集中
募集期間 2019年2月中旬まで全7回(下記サイト参照)
<http://awara.info/3542>

◇神奈川県小田原市「市民参加型再生可能エネルギー事業奨励金(認定設備)」
申請書提出期限 2019年2月28日(木)
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/envi/energy/citizen-participation/shoureikin-setubi.html>

◇神奈川県小田原市「市民参加型再生可能エネルギー事業奨励金(土地)」
申請書提出期限 2019年2月28日(木)

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/envi/energy/citizen-participation/shourekkin-setubi-t.html>

◇兵庫県宍粟市「平成 30 年度：木質バイオマス燃料製造設備補助金」

受付期間 2018 年 4 月 2 日（月）～2019 年 3 月 14 日（木）
<http://www.city.shiso.lg.jp/kurashi/gomishinyokankyo/kankyoris-aikuru/1515747829708.html>

◇長野県 平成 30 年度「1 村 1 自然エネルギープロジェクト」の登録募集

募集期間 三次募集：2018 年 12 月 3 日（月）～2019 年 3 月 15 日（金）
<http://www.pref.nagano.lg.jp/ontai/kurashi/ondanka/shizen/boshutoroku.html>

◇東京都「地産地消型再生可能エネルギー導入拡大事業」

申請期間 2018 年 5 月 7 日（月）～2019 年 3 月 29 日（金）
<https://www.tokyo-co2down.jp/page.jsp?id=9304>

◇経産省資源エネルギー庁「省エネ再エネ高度化投資促進税制（再生可能エネルギー部分）」

適用期限 2018 年 6 月 20 日（水）～2019 年 3 月 31 日（日）
http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/new/information/180404a/index.html

※対象設備に対する特別償却 20%の税制優遇

◇林野庁「省エネ再エネ高度化投資促進税制」

適用期間 2018 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
<https://www.jwba.or.jp/%E6%96%B0%E8%A6%8F%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8-1/%E7%9C%81%E3%82%A8%E3%83%8D%E5%86%8D%E3%82%A8%E3%83%8D%E9%AB%98%E5%BA%A6%E5%8C%96%E4%BF%83%E9%80%B2%E7%A8%E5%88%B6/>

◇京都府「自立型再生可能エネルギー導入等計画の認定及び導入支援制度」

計画認定申請期間 2015 年 10 月 1 日（木）～2021 年 3 月 31 日（水）
<http://www.pref.kyoto.jp/energy/documents/ninteiseidogaiyou.p>

df

◇東京都「東京都区市町村との連携による地域環境力活性化事業」

事業期間 2014 年度～2023 年度までの 10 年間
http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy_others/municipal_support/current.html

◇熊本県熊本市「平成 30 年度熊本市省エネルギー機器等導入推進事業補助金」

http://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=19867&class_set_id=2&class_id=65

◇高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

◇新潟県柏崎市「柏崎市 CO2 プロジェクト」

<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/kankyoseisaku/machi/kankyo/eco2/ondanka.html>

◇山形県「木質バイオマス発電施設整備支援事業費補助金」

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/050016/biomass.html>

◇高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

◇栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syouene-setubi-yuusi.html>

※融資制度

◇徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

◇奈良県「新エネルギー等対策資金」

<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

◇資源エネルギー庁「グリーン投資減税」

http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/green_tax/green_site/green/index.html

◇千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

◇千葉県市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

◇千葉県南房総市「南房総市施設園芸用木質バイオマス暖房機

設置費等補助金」

<http://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

◇福岡県「福岡県エネルギー利用モデル構築促進事業」

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/enegymodel.html>

◇NEDO 平成31年度「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業」（旧：ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業）に係る公募について（予告）

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100194.html

※2019年2月上旬公募開始予定